

国登録有形文化財
旧吉岡家住宅
春の公開

国登録有形文化財 旧吉岡家住宅

— 東大和市ゆかりの日本画家・吉岡堅二の作品・旧邸宅を公開します —
令和4年5月27日(金)～5月29日(日)

時 間: 午前10時～午後4時(入場は午後3時30分まで)

会 場: 国登録有形文化財 旧吉岡家住宅(東京都東大和市清水3-779)

主屋内に吉岡堅二の作品を展示するほか、塗り絵やクイズをご用意しています。

入場は無料です。詳細は裏面をご覧ください。

お問合せ 東大和市立郷土博物館 東大和市奈良橋 1-260-2 TEL 042-567-4800 FAX 042-567-4166

東大和市ゆかりの日本画家・吉岡堅二

吉岡堅二は明治39(1906)年、日本画家・吉岡華堂(かどう)の次男として当時の東京市本郷区に生まれました。父の華堂は、堅二が10歳の時に熱海で療養中に急逝してしまいます。父の没後、一家は東京に戻り、堅二を絵描きにしたいと考へた家族は、商業学校に入学させました。しかし、本人は算術の勉強よりも絵を描くことが好きで、しばらくして学校を退学してしまいます。

15歳の時、画家を志し、父と同門であった野田九浦(のだきゅうほ)の画塾に入門しました。狩野派の流れをくむこの画塾で、伝統的な日本画の基礎を身に付け、父譲りの画才を開花させました。

終戦までに、新日本画研究会や新美術人協会といった在野運動を展開し、戦後は現在の創画会の前身となる創造美術を結成するなど、昭和期における日本画の革新運動を牽引しました。

東京藝術大学で教鞭を執り、中世オリエント遺跡学術調査団員としてトルコでの壁画模写や、法隆寺金堂壁画模写事業にも従事しています。

国登録有形文化財 旧吉岡家住宅

旧吉岡家住宅は、農家で名主を務めた池谷藤右衛門(いけやとうえもん)によって明治中期に建てられました。そして、昭和19(1944)年、堅二が疎開のために東大和へ移り住み、平成2(1990)年に亡くなるまでこの地で創作活動を行いました。

多摩地域で少なくなった豪農層の農家の景観を保つ明治中期の建築物であることや、堅二がこの建物で半世紀近く創作活動を行っていたことが評価され、平成29(2017)年5月2日付けで、旧吉岡家住宅(主屋兼アトリエ、蔵、長屋門、中門)が国の登録有形文化財になりました。

お手軽塗り絵

旧吉岡家住宅の植物や建物をモチーフに、数種類の塗り絵をご用意します。普段絵を描かない方やお子様もお楽しみいただけます。

公開期間中 常時開催

色鉛筆・画板をお貸しします。

所要時間 5～30分程度

参加無料・事前申込不要

場所当てクイズ

探してみよう

これは旧吉岡家住宅のどこ？

旧吉岡家住宅の屋外や屋内の特徴的な部分を探す問題をお配りします。

よく見ないと、見つからないかもしれません。

公開期間中 常時開催

所要時間 5～20分程度

参加無料・事前申込不要

その他

- ・主屋内には吉岡堅二の作品を展示します。季節の植物を描いた作品を中心にご紹介します。
- ・図録・ポストカード・一筆箋を販売します。ぜひご利用ください。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にご協力ください。

- ・来場時にはマスクの着用、手指の消毒、自宅での検温等の対策にご協力をお願いします。
- ・体調がすぐれない方の来場はご遠慮ください。

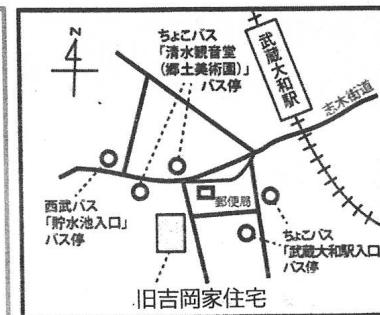
※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、中止または縮小して開催する場合があります。

中止の場合はホームページに掲載します。旧吉岡家住宅 春の公開



交通案内

- ・西武多摩湖線 「武蔵大和駅」から徒歩5分
- ・ちよこバス(市内循環バス)で「清水観音堂(郷土美術館)」下車徒歩1分



公共交通機関・徒歩・自転車等でお越しください。駐車場には限りがあります。(全4台分)